



院長 黒木 副武

創刊のご挨拶と病院紹介

このたび病院広報誌を創刊し、季刊誌として病院の情報などを広く発信してまいります。

当病院は、昭和47年に開設された急性期病院としてスタートいたしました。新しい総合リハビリテーション病院を目指し、全面立替を計画、平成15年12月に完成しました。名称も「埼玉みさと総合リハビリテーション病院」と変更、ほぼ同時に総合介護センターを新築し、デイケア、在宅介護支援センターも設置しています。

当院は埼玉県の一番東に位置し、東京都葛飾区、千葉県松戸市に接しており、患者様も東京都、千葉県、埼玉県から三分の一ずつの入院で、100%紹介入院の病院となっています。新築により、約900㎡のリハビリ室を備え、回復期病棟60床、療養病棟115(55:60)床となりました。総合リハビリテーション施設A、言語聴覚療法Iを取得しており、理学療法士20名、作業療法士20名、言語聴覚療法士7名、リハビリ助手3名、心理士1名となっています。当院は、急性期病院からの脳卒中患者様の紹介が多く、

全体の80%以上となっています。特に、高次脳機能障害、失語症、嚥下障害に力を入れており、言語聴覚療法士を多く配し、各階に訓練室を設けています。また、看護師によるリハビリにも力を入れていきます。回復期病棟は60床で、平均在院日数約90日、80%の患者様が在宅への復帰となっています。療養病棟は、現在55床と60床の2病棟で、リハビリ対象の発症早期の患者様の入院対象としたしております。

平成17年度は、医療ソーシャルワーカー6名体制で入院退院のご支援をいたします。リハビリ職員も14名増員となります。秋には療養病棟60床を回復期リハビリテーション病棟に転換し、回復期病棟への入院をスムーズにできる体制となります。リハビリ専門病院としての質を高め、よりよいリハビリテーションを提供していくことが当院の使命と考え、職員教育に取り組んでいます。各病院様からのご意見、ご指導よろしくお願い申し上げます。

特集

連載!

福祉相談員の部屋

パート 1

社会福祉相談室のご案内

患者様やご家族様が病気に伴う経済的・社会的・心理的な心配事や不安について、医療ソーシャルワーカーが中心となってご相談をお受けし、問題解決のお手伝いをしています。

- ・病气や入院生活について不安がある
- ・医療費、生活費について不安がある
- ・福祉制度に関わる各種手続きをしたい
- ・社会復帰に心配、不安がある



入院の相談の場合には、社会福祉相談室の医療ソーシャルワーカーへまずお電話下さい。患者様の身体状況や病名などを伺います。入院受け入れの判定の際には診療情報提供書(入院中の病院の書式で可)と当院指定の身体状況確認書の2通が必要になります。2枚をFAXまたは郵送して頂き入院判定を行います。判定のお返事(1~2日で判定)をさせて頂いた後、ご家族に来院して頂き、御見学および説明の面談をさせて頂きます。その時点で正式に入院予約となります。

■入院までの流れ



- 受付時間/月~土曜日・第3日曜日(9:00~17:00)
- 問い合わせ先/048-953-1211(代表) 社会福祉相談室まで

みさと情報発信局



◆回復期リハビリテーション病棟増床予定!!◆

17年秋に、回復期リハビリテーション病棟を増床いたします。

現60床→120床

それに伴い、療養病棟115床が55床となります。

回復期リハビリテーション病棟って何??

回復期リハビリテーション病棟は、急性発症した脳血管疾患、大腿部頸部骨折などは発症日から、開胸・開頭・骨折などの外科的手術を受けて廃用性症候群となった場合は手術日から、90日以内の患者様が対象となります。入院期間は、最大180日で、家庭や職場復帰を目指して機能回復訓練を集中して受けられます。医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー、栄養士などの多数の専門職種がチームアプローチする新しい形の病棟です。

病院概要

開設者/中村 哲夫
 開設/昭和47年
 病院長/黒木 副武
 病床/175床
 診療科目/リハビリテーション科、内科、神経内科
 施設内容/回復期リハビリテーション病棟60床、療養病棟115床
 (平成17年秋にそれぞれ120床、55床へ)
 総合リハビリテーション施設
 医療設備/ヘリカルCT、VF装置、等
 [附属施設] 総合介護センター
 (通所リハビリテーション・居宅介護事業所)
 三郷市在宅介護支援センター新和

編集後記

様々なスタッフの力を借り、ここに広報誌「プラザイムス」が完成いたしました!感謝の思いでいっぱいです。マーケティングの世界的権威であるフィリップ・コトラーは、こう述べています。「提供物の知覚価値が高いほど、ブランド・エクイティ(純粋なブランドの価値)も大きくなる」(「マーケティング 10の大罪」より抜粋)。これからも「プラザイムス」は、当院の特色や個性を皆様へ紹介し、「知覚価値の高い」広報誌を目指します。今後とも、宜しくお願い申し上げます。

地域医療連携室 船崎 満春

埼玉みさと総合リハビリテーション病院 広報誌
 Plaza ims(プラザイムス) 創刊号 2005.3
 発行/埼玉みさと総合リハビリテーション病院 地域医療連携室
 発行日/2005年3月
 〒341-0034 埼玉県三郷市新和5-207
 医療法人三愛会 埼玉みさと総合リハビリテーション病院
 TEL.048-953-1211(代表) http://www.ims.gr.jp/saitama_misato/

一 病院理念一

リハビリテーション医学を実践し
 患者様の幸せ・満足に貢献する病院

一 基本方針一

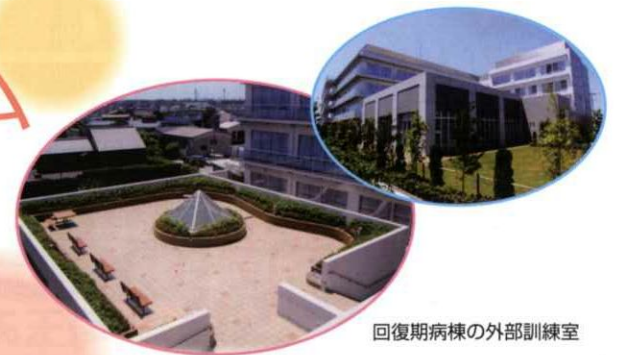
- ・高度な医療・看護・リハビリテーションの知識を高め実践します。
- ・チームアプローチに基づいた医療を提供します。
- ・早期の患者様の社会復帰を目指します。

900㎡の広々としたリハビリテーションルーム

個々の患者様に適したプログラムを作成し、マンツーマンの対応で集中的に行います。



- 1人あたり8㎡以上の広さを有しており、ベッドサイドでのリハビリ訓練も行えます。



回復期病棟の外部訓練室



スタッフステーション



作業療法の一環(パソコン)



作業療法の一環(キッチン)

私たちの強みはこれです! —埼玉みさと総合リハビリテーション病院の特色—

- ① 脳血管疾患の患者様**を多く受け入れています。
当院の患者様の8割が脳血管疾患を起こされた方です。発症後になるべく早期に受け入れ、リハビリテーションを行う体制が整っています。
- ② 言語・嚥下機能障害**に対するリハビリに力を入れています。
当院では、各フロアに1室を含めた7室の言語聴覚室で、言語聴覚療法士が機能回復とコミュニケーション能力の向上を目指しています。
また、経管栄養の患者様は、食事を経口で摂取していただくためのリハビリテーションを行っています。その評価方法として、嚥下造影検査法(VF装置)を取り入れています。
- ③ 現状50名のリハビリスタッフと看護師**がリハビリに当たります。
当院では、理学療法士20名、作業療法士20名、言語聴覚療法士7名、リハビリ助手3名、春にはスタッフが14名増員され、看護スタッフと共にリハビリテーション訓練に当たります。
- ④ 心理士が「心のサポート」**に当たります。
当院では、心理士が患者様の訓練を続ける意欲を引き出すために、「心のサポート」に当たります。
- ⑤ 8割の患者様**がご自宅に戻られています。
当院の患者様の8割が、ご自宅に戻られています。入院相談からの担当医療ソーシャルワーカーが、退院にあたって介護保険サービスや社会資源などの調整をするほか、患者様が地域で主体的に生活できるよう全スタッフで支援いたします。

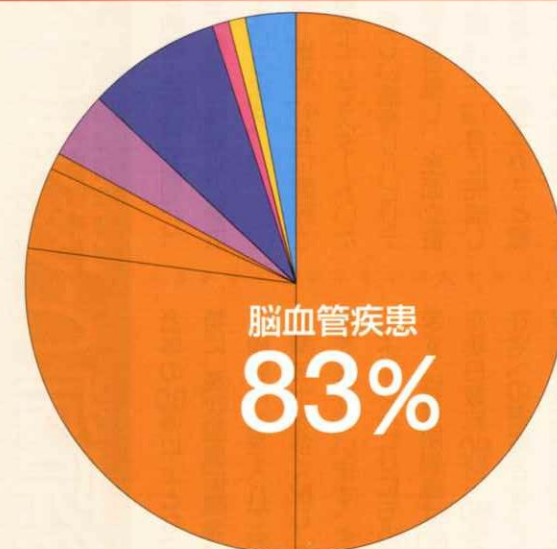


言語聴覚療法室



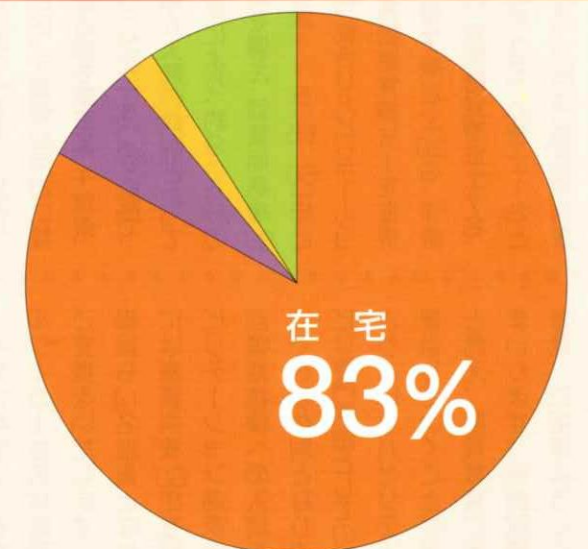
嚥下造影検査の様子

主な入院患者様の病名は??



脳梗塞 50% 脳内出血 27% クモ膜下出血 5%
脳動脈瘤 1% 脳・脊椎外傷 4%
上下肢・骨盤・大腿骨等骨折 8% 神経筋疾患 1%
廃用性症候群 1% その他 3%

退院後の行き先は??



在宅 83% 一般病院 6% リハビリ病院 2%
介護老人施設 9%